

越前おおのまるごと道の駅ビジョン

平成24年2月 策 定

平成24年7月 一部修正

大 野 市

1	大野市の概要	・ ・ ・ 1
2	「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の位置づけ	・ ・ ・ 3
3	越前おおのまるごと道の駅 ー中部縦貫自動車道と道の駅ー	・ 4
4	「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」を実現するために	・ ・ 8

1 大野市の概要

《位置》

大野市は、福井県の東端、岐阜県との県境に位置し、西は福井市及び池田町、北は勝山市及び石川県、東と南は岐阜県に隣接しています。

平成 17 年 11 月に和泉村と合併し、現在、総面積は 872.30 平方キロメートルで、福井県内最大の市域面積を有し、福井県全体の 20.8%を占めています。

九頭竜川水系の源流にあって、市域の 8 割以上を森林が占め、四方を白山連峰の支脈に囲まれ、標高 1,625m の経ヶ岳や標高 1,524m の荒島岳をはじめとする 1,000m 超級の山々が峰を連ねています。

主な幹線道路は、勝山市との間を南北に結ぶ国道 157 号、市内を縦貫し福井市と岐阜県方面を東西に結ぶ国道 158 号があり、現在、東海北陸自動車道と北陸自動車道を結ぶ中部縦貫自動車道が市内で整備中です。

歴史上、越前の国（福井）と美濃の国（岐阜）を結ぶ街道は「越前街道」「美濃街道」と呼ばれ、この「越前・美濃街道」のルートは、現在では、国道 156 号、158 号、そして東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道に重なるルートとなることから、大野市は福井県の東の玄関口となっています。

鉄道は、九頭竜湖駅と福井駅を結ぶ JR 越美北線（九頭竜線）が国道 158 号にほぼ並行して走り、福井駅で JR 北陸本線と接続しています。



《特徴》

古くから越前・美濃両国を結ぶ交通の要所であった大野は、荘園や城下町として発展しました。天正元（1573）年朝倉氏の滅亡後、一時は一向一揆の支配下となりましたが、一揆はまもなく織田信長に平定され天正3（1575）年金森長近が戦功により大野の大部分を統治するようになりました。

長近は大野盆地が見渡せる亀山に築城し、その東麓に碁盤目状（短冊型）の城下町建設に着手しました。これが現在の大野市街地のまち並みの原形となっており、以後、430年余の間、大野は奥越地方の中心地として栄えてきました。

亀山山頂にそびえる天守閣と碁盤目状のまち並み、中世から近世にかけて築かれた寺院が薈を連ねる寺町通り、城下町誕生のころから続くといわれる七間朝市など、歴史的な景観や風情を今も色濃く残していることから、「北陸の小京都」と呼ばれ、近年はまちなか散策を目的とした観光客が増加しています。

この長い歴史を持つ市街地のある大野盆地からは、日本百名山「荒島岳」をはじめとする秀峰が望め、四季折々の自然美を見ることができます。

また、地下水が豊富で、市街地には名水百選の「御清水（おしょうず）」、平成の名水百選の「本願清水」をはじめ多くの湧水地があり、水を活かしたまちづくりの様々な取り組みが認められ、国土交通省の「水の郷百選」に選ばれています。

さらには、本願清水は、清流のシンボルとされる陸封型イトヨの生息地の南限として国の天然記念物に指定されており、固有の自然環境の保全に市民と行政が一体となって取り組んでいます。

こうした地下水や湧水は城下町の発展に恩恵を与え、それが信仰、伝説などにも脈々と受け継がれ、大野市特有の湧水文化を育んできました。

特に、この清らかな地下水と地元のおいしい農産物を使用した日本酒や醤油、味噌の醸造は古くから盛んで、市内には、今も多くの醸造所が伝統を受け継いでいます。

このように大野市には、緑豊かな自然環境が育むおいしい水と食に恵まれた、歴史、文化、伝統が息づく魅力ある地域資源が数多くそろっています。



越前大野城から望む大野盆地(手前は城下町)



七間朝市



御清水

2 「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の位置づけ

今日の日本は経済が低迷する中、少子化・高齢化の同時進行により、人口の減少、特に生産年齢人口の減少が顕著になっています。また、急激な情報化や国際化の進展、国民の価値観の多様化、規制緩和や地方分権など社会情勢も大きく変化しています。

他の地方都市も、それぞれの地域の特性を活かし切磋琢磨する中で、大野市も、これまでに経験したことがない困難な諸課題に向き合っていかなければなりません。

このように地方を取り巻く経済・社会情勢が年々厳しくなる中、大野市では、平成 23 年 2 月に 10 年後の市のあるべき姿を見据えて、第五次大野市総合計画を策定し、将来像を「ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち」と定めました。

この総合計画において、構想実現のための柱「産業が元気」の基本目標「誰もが快適で暮らしやすいまち」の基本施策「中部縦貫自動車道の整備促進」の中に「越前おおのまるごと道の駅構想の推進」を掲げています。

「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」は、将来像の実現に向け、中部縦貫自動車道の開通を見据えて全国に誇ることができる魅力ある越前おおのを実現するため、様々な地域資源を「市民力」と「地域力」で磨き上げ、大野インターチェンジから大野東インターチェンジの間の道の駅を「まるごと道の駅」の核として活用し、中部縦貫自動車道の利用者が市内を回遊したくなる越前おおののイメージを描くものです。

なお、このビジョンを現実のものとするため、ふるさとの良さや資源をしっかり掘り起こすということ、地域ぐるみで助け合いや支え合いを強化していくということ、来るチャンスを活かすためその活用策や受け入れ態勢を強化していくということ、より広域的な地域とのつながりを構築していくことこの 4 点に留意しながら、市民総参加型の市政を推進していきます。

3 越前おおのまるごと道の駅 ―中部縦貫自動車道と道の駅―

大野市にとって中部縦貫自動車道は、広域交通の円滑化や文化・観光資源を活かした地域振興や産業経済の発展、地震など災害時の緊急輸送・救急医療活動の支援、冬季における安全で安心な交通の確保のために真に必要な道路であり、まさに「生命（いのち）の道」「生活の道」「希望の道」です。

市内において中部縦貫自動車道の工事が市民の目に見えて進んでおり、市内を通る中部縦貫自動車道の一部供用開始の時期も迫ってきました。このチャンスをどう活かすべきか市民の期待も高まってきています。

このチャンスを活かすためには、その時を待つのではなく、来る時に本領が発揮できるよう様々な形で備えておく必要があります。中部縦貫自動車道についても、全線供用開始するまで待つということではなく、開通を見据えて、交流人口を受け入れる準備が欠かせません。

このため、今、大野市では「越前おおの総ブランド化」をキーワードに中心市街地の活性化や越前おおの型農業の推進など様々な事業に取り組んでいます。また、行政はもとより各地区においても「市民力」と「地域力」を発揮しながらそれぞれの地域資源を磨いていくことに取り組んでいます。

＜中部縦貫自動車道の整備状況＞

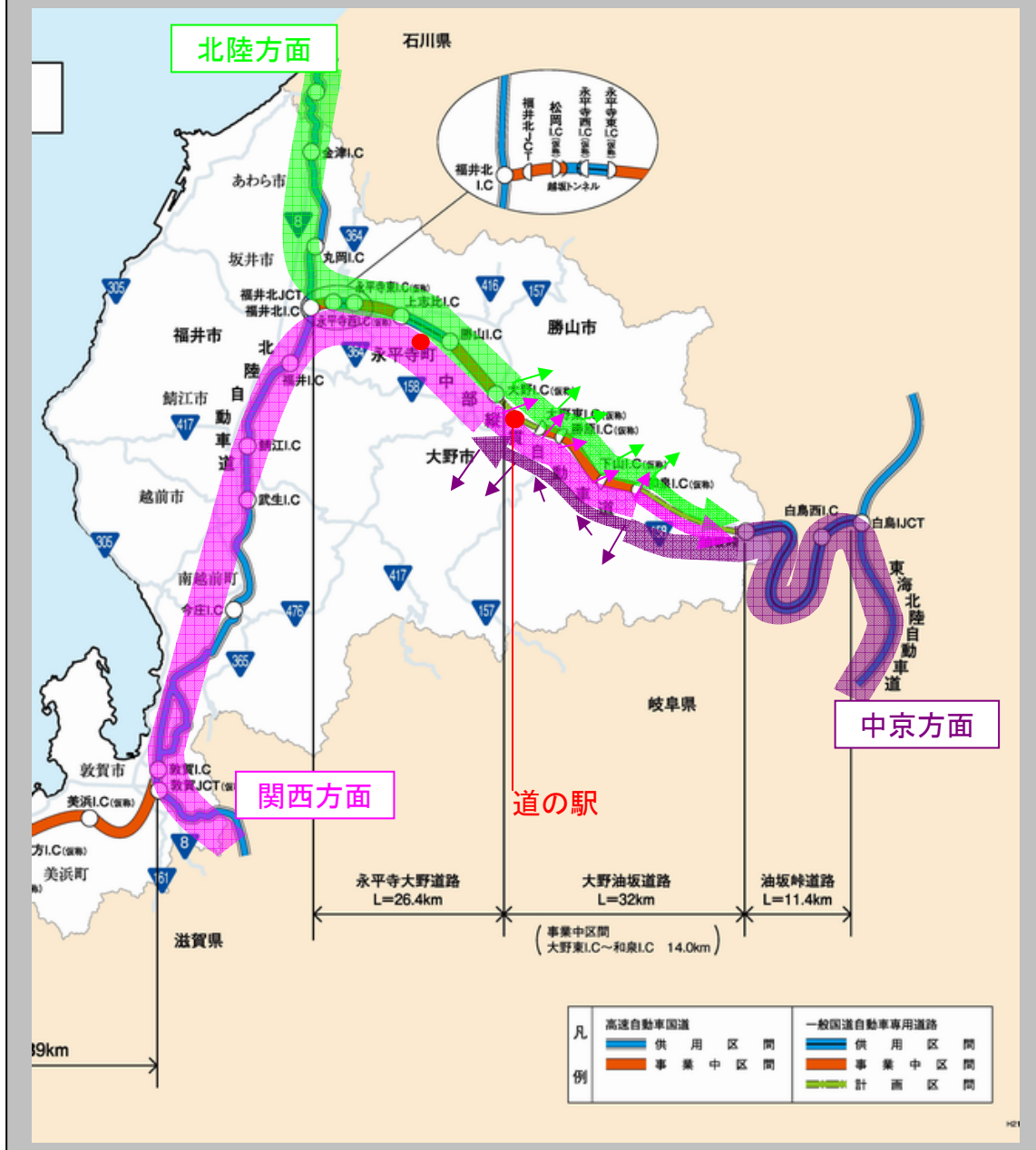
中部縦貫自動車道は、福井県と関東圏を最短距離で結び、北陸圏、中京圏、関東圏を結ぶ広域ネットワークを形成する重要な道路であり、その開通によって新たな周遊観光ルートや安定した物流ルートの構築が図られ、交流人口の増加や企業誘致などによる地域振興が見込まれます。

中部縦貫自動車道の福井県内における整備状況は、福井北ＪＣＴから大野ＩＣに至る永平寺大野道路 26.4km のうち、上志比ＩＣから勝山ＩＣ間の 7.9km を含め 11.1km が供用されており、平成 24 年度には勝山ＩＣから大野ＩＣ間の 7.8km が供用開始される予定です。福井県及び沿線市町では、平成 28 年度までの全線供用開始を関係機関に対し強く要請しているところです。

大野ＩＣから油坂出入口までの大野油坂道路約 32km のうち、大野東ＩＣから和泉ＩＣの約 14km は平成 21 年 3 月 13 日に事業化されています。この区間に設置されるＩＣは大野東ＩＣ、勝原ＩＣ、下山ＩＣ、和泉ＩＣの４カ所となっており、大野東ＩＣと和泉ＩＣはフルＩＣとなる計画です。勝原ＩＣと下山ＩＣは福井方面への入口と、福井方面からの出口のみのハーフＩＣとなる計画です。

また、和泉ＩＣから油坂出入口間の 15.5km は、平成 23 年 12 月に国において新規事業化路線として採択されました。残る大野ＩＣから大野東ＩＣ間の新規事業化と併せ、一日も早い全線供用開始を要請しているところです。

＜中部縦貫自動車道が全線供用開始した時の車の流れ 通行料は無料＞



この一環として、平成 20 年 7 月に認定された大野市中心市街地活性化基本計画に基づき、平成 22 年に「越前おおの結ステーション」を整備しました。人が集う、活気に満ちた城下町の再生を目指して、地域住民の交流拠点としての機能と、観光客などの来訪者のまちなかへの回遊性を高め産業の活性化を図る機能を併せ持つこの場所では、市内に点在する観光資源や施設、各地域で行われるイベントなどの情報を常時発信しています。

また、平成 22 年は 1 年を通じて「越前大野城築城 430 年祭」を開催し、多くの市民や団体、地元企業の協力の下、180 万人を超える来訪者を越前おおの

へ招き入れることができました。特に、地元の若者たちの力の結集により、自らが企画運営したB級グルメイベント「越前おおの“とんちゃん祭”」や野外ドキュメント「心灯（こころび）」などが成功し、多くは次年度以降も継続して開催され、着実に「市民力」と「地域力」が向上してきています。

このような取り組みが増え、人、歴史、文化、伝統、自然環境、食など大野市が誇る魅力ある地域資源のすべてを磨き上げ、地域情報の発信が市内各地で行われることとなれば、中部縦貫自動車道の利用者に対して大野市全体が「道の駅」として、市全体で「休憩機能」「情報発信機能」及び「地域の連携機能」を提供できることとなります。

「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」は、市民や地域、各種団体、企業、行政が一体となって地域資源の魅力の向上を図ることで、中部縦貫自動車道の利用者が市内を回遊するイメージを表しています。

<「道の駅」とは>

「道の駅」とは、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけにまちとまちとが手を結び活力ある地域づくりをともに行うための「地域の連携機能」の三つの機能を併せ持つ、国土交通省により登録された休憩施設として定義付けされています。

具体的には、一般国道などに接してトイレ、駐車場、休憩施設、情報案内施設を設置していることが必須条件であり、さらに利用者に多様なサービスを提供する施設がほとんどの道の駅に併設されています。

平成23年8月現在では、全国に977カ所の「道の駅」が整備され、多くの来訪者に利用されており、地域の活性化に寄与しています。

なお、大野市朝日の国道158号沿いには、平成6年4月に登録された「道の駅九頭竜」があります。

越前おおのまるごと道の駅ビジョンイメージ



4 「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」を実現するために

「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」を実現するために、以下の3点を推進します。

(1) 越前おおの総ブランド化を目指し、地域資源を磨き上げます

これまで大野市では、大野市教育理念に示す「大野人（おおのびと）」が持つ明倫の心や、越前大野城、御清水、化石などの「観光資源」、里芋・ネギ・スイートコーンなどの「特産作物」、酒・味噌・醤油などの「特産品」、その他多くの魅力ある地域資源など様々な素材を、個別にブランドとして位置づけながら、市のイメージアップを推進してきました。

今後、「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」を実現するためには、「人」「観光資源」「特産作物」「特産品」などの個別ブランドを有機的に連携させ、そこに共通する大野市全体のイメージを構築し、総ブランド化することが重要となります。このため、行政や企業、各種団体、市民の役割分担を行い、「越前おおのブランド戦略（仮称）」を策定し、「市民力」と「地域力」により地域資源に磨きをかけ、総ブランド化を図ります。

「越前おおのブランド戦略（仮称）」をはじめとして、「越前おおの観光戦略プラン」や「越前おおの型 食・農業・農村ビジョン」「大野市中心市街地活性化基本計画」などの関連計画の実施により具体化を図ります。

観光資源・素材のエリア別一覧

まちなか観光エリア

- ・越前おおの結ステーション 結楽座、輝センター、藩主隠居所、平成大野屋（洋館、二階蔵、平蔵）
- ・城下町東広場（お野立所、交流スペース）
- ・越前大野城 亀山公園 七間朝市 七間通り 寺町通り
- ・石灯籠地蔵尊 石灯籠会館 武家屋敷旧内山家 民俗資料館
- ・歴史博物館 朝倉義景墓所 御清水 本願清水 新堀清水
- ・七間清水 水舟清水 五番名水庵清水 芹川清水 義景清水
- ・篠座神社の御霊泉 駅清水 石灯籠会館清水
- ・本願清水イトヨの里 越前こぶし組

- ・木本薬師堂の清水
- ・宝慶寺 宝慶寺いこいの森
- ・旧橋本家住宅 銀杏峰
- ・耶麻鼓屋 黒谷観音
- ・戌山城址 茶臼山城址

麻那姫湖エリア

- ・麻那姫湖青少年旅行村
- ・麻那姫湖 真名川ダム
- ・平家平 姥ヶ岳 能郷白山

六呂師高原・阪谷エリア

- ・奥越高原牧場 六呂師ハイランドホテル
- ・トロン温浴施設うらら館 ミルク工房奥越前
- ・サン・スポーツランド サン・フィッシュランド
- ・六呂師高原スキー場 円山公園（ミニ牧場）
- ・妻平湿原 経ヶ岳 県立自然保護センター
- ・奥越青少年自然の家 白山ワイナリー
- ・スターランドさかだに 桃木峠の大杉

- ・小池公園（キャンプ場）
- ・刈込池
- ・白山神社のカツラ
- ・鳩ヶ湯温泉
- ・赤兎山
- ・三ノ峰

和泉エリア

- ・道の駅九頭竜（ふれあい会館）
- ・九頭竜湖 九頭竜ダム 夢のかけはし
- ・歴史の里 郷土資料館、笛資料館、穴馬民俗館
- ・国民休養地 パークホテル九頭竜、キャンプ場、九頭竜スキー場
- ・九頭竜保養の里 九頭竜温泉平成の湯、ホテルフレアール和泉、コテージ
- ・上、下半原ふれあい湖畔（キャンプ場）
- ・和泉前坂家族旅行村 平家岳 鷲鞍岳
- ・天狗岩ファミリーパーク 伊月の湧水 蝶の水
- ・福井和泉スキー場 九頭竜自然楽校 面谷鉱山跡

平成 23 年度に開催した主なイベント・祭事の一覧

月	行事名	会 場	内 容
4	大野さくらまつり	有終公園、亀山公園、義景公園	ぼんぼり点灯、ステージイベント、物産販売等
	蕨生里神楽	埴安姫（はにやすひめ）神社	里神楽（獅子舞）の奉納
	篠座里神楽	篠座神社	里神楽（獅子舞）の奉納
	越前大野 春の小京都まつり	五番通り	物産販売、ゆかりのあるまち物産市、小京都物産市
	七間朝市山菜フードピア	七間通り	朝市総出店、山菜茶屋開設、市内外物産販売、よもぎ餅つきの実演販売等
5	荒島岳山開き「芽吹祭」	旧勝原スキー場周辺	安全祈願祭、記念登山
	銀杏峰山開き	小葉谷登山口（宝慶寺）	安全祈願祭、記念登山
	シバザクラまつり	中丁揚水施設（国道 158 号沿）	乾側地区民によって植えられたシバザクラを楽しみながら各種催しの開催
	九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	ステージイベント、新緑市場、交流市、子供の広場
	越前大野名水マラソン	越前おおの結ステーション スタート・ゴール	マラソン大会
6	野外ドキュメント“心灯” こころび	六呂師高原	アウトドアをテーマにした物産販売・体験・音楽ステージ
	半夏生サバ買出しウォーキング	越前町～輝センター	半夏生サバのルーツをたどるウォーキングイベント
	ホテル鑑賞会	上丁	ホテルに関する研究発表、講演会、フォーラム、鑑賞会
7	九頭竜自然楽校カヌーフェスティバル	下半原ふれあい湖畔キャンプ場	キャンプ、ダッチオープン料理、溪流トレッキング、カヌー体験等
	越前おおの“とんちゃん祭” ～ホルモン大野城の戦い～	越前おおの結ステーション	県内外からホルモン料理が終結し、味比べによりホルモン日本一を決定
8	おおの城まつり	六間通り、真名川憩いの島	大花火大会、中学生みこしダンスパフォーマンス、越前おおのおどり
	てらまち万灯会	寺町通り	お盆送り火として 3,000 本のろうそくが通りに並ぶ
	黒谷観音十日盆 星の下コンサート	黒谷観音	祥雲太鼓
9	稲郷里神楽	稲郷八幡神社	里神楽（獅子舞）の奉納
10	木本里神楽	木本高於磐座神社	里神楽（獅子舞）の奉納
	五番夜市・竹あかりコンテスト	五番通り	物産テント市、竹のオブジェコンテストと展示、ステージイベント
	三大朝市物産まつり	七間通り	七間朝市総出店、飛騨高山など友好都市の物産市など
	九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	ステージイベント、紅葉市場、体験コーナー
11	越前おおの産業と食彩フェア	越前おおの結ステーション	商工林製品の展示販売、ステージイベント
	越前大野小京都物産五番まつり	五番通り	ゆかりのあるまち物産市、舞妓さん体験、全国小京都物産市
	越前おおの新そばまつり	越前おおのまちなか交流センター	新そばの対面販売、ソバ打ち体験、ソバ粉を使った料理教室、試食
2	越前おおの冬物語	越前おおの結ステーション、七間通り	雪見灯ろうの設置、冬花火、ステージ、朝市特別開催、もちの振舞い他
	でっち羊かんまつり 越前おおのふるさと味物語	越前おおのまちなか交流センター	でっち羊かんの味めぐり、大野の名産品飲食・販売コーナーなど
3	七間朝市開き	七間通り	朝市総出店、招福もちまき
	木本「初午だんごまき」	木本岩崎稲荷神社	色とりどりの丸もちやキツネなどの形をした団子撒き

(2) 中部縦貫自動車道利用者を市内へ引き込むため情報の提供と回遊性の向上を図ります

越前おおのの地域資源を磨き上げても、そこに気軽に立ち寄ることができなくては、来訪者が地域資源の魅力を体感することはできません。

このため、来訪者がスムーズに目的地にたどり着けるように適切な道案内が必要となります。

また、観光客を地域資源へ誘導する方法としては、例えば、中部縦貫自動車道にある「まるごと道の駅」の核となる施設（道の駅）を基点に環境に配慮したシャトルバス（(仮称)ミニはとバスなど）の運行やレンタル電気自動車・電動アシスト自転車の活用など、市内を回遊できるような仕組みも考えられます。

これらの方針については、平成 23 年 7 月に改訂した「大野市都市マスタープラン」においてまちづくりの将来ビジョンに示したところであり、関連計画の実施により具体化を図ります。

(3) 中部縦貫自動車道に「まるごと道の駅」の核となる施設（道の駅）を誘致します

中部縦貫自動車道の利用者を市内へ引き込むためには、中部縦貫自動車道に誘致する「まるごと道の駅」の核となる施設（道の駅）で情報発信を行うことが不可欠となります。

このため、大野市では、越前おおのの魅力ある様々な地域資源に関する情報を提供し、積極的に市内への誘客を図ることができるよう、いつでも最寄りのインターチェンジから自家用車などで市内へ入ってくることが可能な「まるごと道の駅」の核となる施設（道の駅）が大野インターチェンジと大野東インターチェンジ間に必要となります。

また、これからの道の駅の果たす役割の一つとして、ヘリポートなどを設置することにより、近隣で大規模災害が発生した際には、自衛隊などの救援活動や災害ボランティアの支援活動、物資の搬入の拠点として、さらに、東海地震や東南海地震などの発生時に東名・名神高速道路などの太平洋側の高速交通体系が分断された場合には、人や物資の緊急輸送、救急医療活動のベース基地として利用することができます。

このように、道の駅の設置は、大野市の将来像を実現するため、最重要の課題となることから、今後は、関係機関と連携し「まるごと道の駅」の核となる施設（道の駅）の誘致の具体化を積極的に進めます。

大野盆地より日本百名山「荒島岳」を望む

